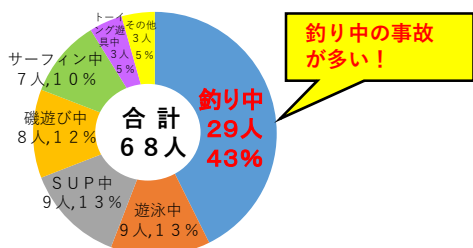
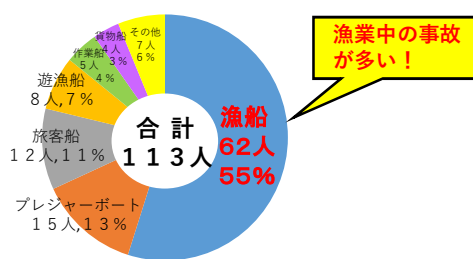


秋は「釣り中」「漁業中」の事故に「用心！」

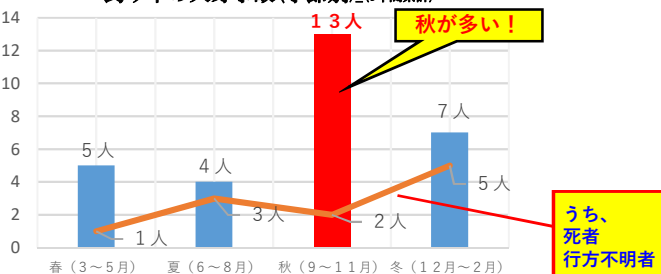
マリレジャー(活動別)に伴う人身事故(5年間累計)



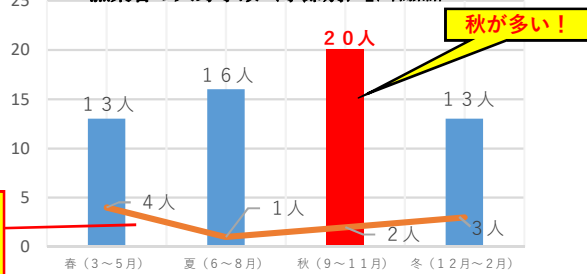
船舶(種類別)乗船者の人身事故(5年間累計)



釣り中の人身事故(季節別)(5年間累計)



漁業者の人身事故(季節別)(5年間累計)



■海難防止講習会を開催
宮城海上保安部は、海上安全サポーターのCARAV@Nの方々と一緒に、10月28日、宮城県漁業協同組合仙南支所の組合員の方々を対象とした海難防止講習会を開催しました。

講習会では、救命胴衣の正しい着用や梯子の備え置き等の海中転落への備えの重要性を説明したほか、養殖施設の区域を明示するのに有効な簡易レーダーレフレクターを参加者全員で作成し、最後に、この日の

■漁具被害も多発
宮城県では、牡蠣や海苔の養殖も盛んであり、県内沿岸には多数の養殖施設が設置されていますが、航行船舶がこれら施設の存在を知らずに接触し、漁具が損傷する事故も多発しています。

■秋は釣りや漁業中の事故が多発!
秋が到来し、釣りシーズンもいよいよ本格化しますが、皆様、秋季は「釣り中の事故」や「漁業中の事故」が増加する傾向にあるということ、ご存知ですか。上記グラフは、過去5年間の釣り中又は漁船乗船者の人身事故者の状況を示したもので、どちらも秋(9月~11月)に事故が多発していることが分かります。

更にコロナ禍の影響で、手軽に楽しめるレジャーとして釣りの人気が再燃し、全国的に釣り人口が増加しており、これに伴い事故の増加も懸念されるところです。そして、本年にあっても、例年通り釣り中や漁業中の事故が多発しています。

■レーダーレフレクターとは?
レーダーレフレクターとは、レーダーの電波を効率的に反射させ、レーダーに映りやすくするものです。

養殖施設の区域は、竹竿やブイにより明示されていますが、このままでは船のレーダーに映り難いため、これを使用しレーダーにはっきりと表示されることで事故防止に役立ちます。

レーダーレフレクターは市販されていますが、500m1のアルミ缶3本を使用して、安価に作成することができます。

■簡易レーダーレフレクターの作成方法はQRコードをチェック!
これからも、宮城海上保安部は、海上安全サポーターの方々と一緒に、より多くの海難を未然に防ぐため活動することとして、引き続き、関係者の方々の、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



サポーターのCARAV@N(写真右と左)から簡易レーダーレフレクター20個を贈呈

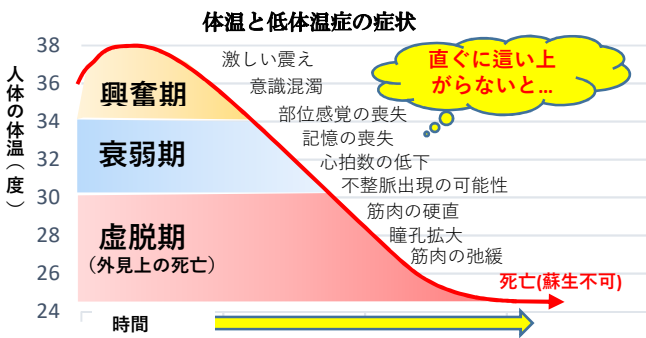
「低体温症」とは

海中転落に備えよう！

釣り中の事故は、「海中転落」が突出して多く、全体の約90%（5年間累計）を占めています。

秋を迎えている宮城県沿岸の海水温度は20度を下回り、真冬には1桁となりますが、このような海に転落してしまつたと、「低体温症」になりかねません…。

「低体温症」とは、体の中心部の温度が35度を下回ることにより、体の機能を正常に維持できなくなる状態のことをいいます。左の図が示すとおり、何らかの要因により体温が35度以下になると、激しい震え、判断力の低下等の初期症状を経て、時間の経過とともに筋肉の硬直、脈・呼吸の減少、血圧の低下等の症状となり、最終的に意識消失に至ってしまいます。



海中転落したときの水温と生存時間の関係

水温	意識不明までの時間	予想生存時間
0～5℃	15～30分	30～90分
5～10℃	30～60分	1～3時間
10～15℃	1～2時間	1～6時間

もし、海中転落してしまつたら、直ちに海から這い上がり、暖を取る必要と必要に応じて医療機関での処置が必要となります。しかし、身体が冷え切った状態で船の縁を掴んで船上に這い上がることは、なかなか困難です。

■ 縄梯子が有効！

海から船上や陸上に這い上がるには梯子が有効です。

しかし、岸壁では、ごく一部しか梯子は設置されていません。また、船でも、鋼製梯子の設置が困難な船型もあるため、お勧めするのが「縄梯子」です。

「縄梯子」は、ロープだけで作成できるため、重量も軽く、収納もスペースをとらず、鋼製梯子を購入するより安価です。

■ 縄梯子使用時の注意点

縄梯子は、船体外板との間に空間がある場所で使用すると、縄梯子が触れ回り、姿勢が安定しません。そのため、船体中央から船尾部分への取り付けが推奨されます。



縄梯子を使用して直ちに陸や船に這い上がる！

縄梯子の作成方法は、QRコードをチェック！



縄梯子

■ 縄梯子の活用

海中転落してしまい、体力が無く縄梯子を登れるか不安な場合は、縄梯子に掴まって体力を温存しましょう。

船のそばであれば、海上保安庁の巡視船艇や航空機はもちろん、他の船舶からも発見されやすくなり、早期発見・救助に繋がる確率が高くなります。

■ 救命胴衣等の必要な装備を装着

いつ海中転落してしまふか分からないため、救命胴衣は定期的に点検したうえで、正しく着用しましょう。

また、着用時にチャックが開いていたり、腰のベルトが緩んでいると、海中転落時に救命胴衣が脱げて、身体が沈んでしまいます。

更に、釣り場に合った履物を選ぶとともに、携帯電話は防水バックに入れましょう。防水バックに入れることにより、海中転落時にも「118番」に通報し、救助を求めることができます。

■ 海中転落事故に遭わないために

海中転落事故に遭わないためには、立ち入り禁止されている防波堤等の「危険な場所」には立ち入らないことや、事前に釣り場の天気予報や体調を考慮し「無理はしない」ことが重要です。



防水バック入り 携帯電話で「118番」通報